

The Japanese Onco-Cardiology Society

日本腫瘍循環器学会

会報

2021/4

No.2

目次

- 理事長挨拶 1
- 事務局からのお知らせ 1
- 第4回（2021年）
日本腫瘍循環器学会学術集会開催のお知らせ
..... 2
- 第3回（2020年）
日本腫瘍循環器学会学術集会開催のご報告
..... 3
- 学会報告
European Society of Medical Oncology: ESMO Virtual Congress 2020 4
Virtual Cardio-oncology Summit Report 5
- 施設紹介
旭川医科大学・循環呼吸神経病態内科・循環器外来
北海道がんセンター循環器外来・腫瘍循環器センター..... 6
- 役員名簿 7



一般社団法人
日本腫瘍循環器学会
<http://j-onco-cardiology.or.jp>

理事長挨拶

一般社団法人 日本腫瘍循環器学会
理事長 小室 一成

ようやくワクチン接種が始まり、首都圏の非常事態宣言も解除されましたが、未だに新型コロナウイルス（COVID-19）感染はおさまることなく、本日（10月12日）の一日新規感染者数は1500名ほどです。多くの医療関係者の皆様におかれましては、診療や研究活動において大変ご多用のことと存じます。一日も早い感染の終息と感染された方々の快復を心よりお祈り申し上げます。

日本腫瘍循環器学会ですが、2017年10月の設立以来、会員数は着実に増加し、現在正会員610名、準会員33名、賛助会員5団体です。各種委員会活動も活発化し、徐々にその成果が出てまいりました。昨年には編集委員会が中心になって学会の総力を挙げて作成した「腫瘍循環器診療ハンドブック」を発行しましたが、大変好評を博しており早々に増刷が決まりました。また学会の重要な使命の一つであるレジストリーについても、国際医療福祉大学の田村雄一先生が中心となりAMED研究「免疫チェックポイント阻害薬の安全な使用に資するirAE 心筋障害スクリーニング手法と危険因子の探索研究」を開始しました。免疫チェックポイント阻害薬による心筋障害は多いものではありませんが一旦発症すると大変重症化しますので、本学会としても極めて意義のある重要なレジストリーであると思います。会員の皆様におかれましては、是非本研究に積極的にご参画いただければと存じます。

この度、会員向けの会報No.2を発行する運びとなりました。第2号では、2021年10月12日（火）～14日（木）に開催される第4回日本腫瘍循環器学会学術集会（会長 石岡千加史東北大学教授）開催のお知らせ、2020年9月11日（金）、12日（土）に開催された第3回学術集会（会長 斎藤能彦奈良県立医科大学教授）開催の報告、European Society of Medical OncologyとVirtual Cardio-Oncology Summitの2つの海外学会の報告と旭川医科大学病院と国立病院機構北海道がんセンターの施設紹介が掲載されています。これからも、腫瘍循環器領域の診療や学術に関するコンテンツを発信してまいりますので会員の皆様にお役立ていただければ幸いです。最後に学会ホームページが新しくなりました。明るくより見やすいものになりましたので是非見ていただければと存じます。

末筆ながら会員の皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。

事務局からのお知らせ

○新ホームページについて

当学会のホームページが昨年から新しくなっております。どうぞご覧ください。

<http://j-onco-cardiology.or.jp/>



第4回日本腫瘍循環器学会学術集会開催のお知らせ

- 会期：** 2021年10月12日（火）～14日（木）
- 会場：** Web開催
- 大会テーマ：** State of the art onco-cardiology 最新の腫瘍循環器学
—わが国の現状と課題—
- 会長：** 石岡 千加史（東北大学大学院医学系研究科・臨床腫瘍学分野・教授）
- 学術集会事務局：** 東北大学大学院医学系研究科・医学部 臨床腫瘍学分野
NPO法人東北臨床腫瘍研究会
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1
- 事務局担当：** 高橋 雅信

ごあいさつ

この度、第4回日本腫瘍循環器学会学術集会（2021年10月12日～14日）を担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

高齢化社会を迎えたわが国では、1981年以降、死因の第1位が「がん（悪性腫瘍）」であり、現在、第2位が心疾患（高血圧症を除く）、第3位が脳血管障害となっています。このため、心血管系疾患を合併する悪性腫瘍患者が年々増えています。一方、2000年以降のがん治療の進歩は目覚ましく、とりわけ、がん分子標的治療薬の開発によるがん薬物療法の進歩により、進行がんの治療成績は年々向上しています。しかし、種々のがん分子標的治療薬の副作用により、心血管系合併症を有する患者が増加しています。このため、進行癌治療に際して、以前よりも心血管系疾患や心血管系合併症の診断と治療が重要になっています。

このような背景から、最近10年の間にOnco-cardiology（腫瘍循環器学）またはCardio-oncology（循環器腫瘍学）が内外で徐々に注目されるようになりました。わが国においても2018年に日本腫瘍循環器学会が発足し、2018年11月に第1回学術集会が開催され年々参加者が増えています。

今回の第4回学術集会（JOCs 2021）では、「State of the art onco-cardiology 最新の腫瘍循環器学—わが国の現状と課題—」をテーマとし、腫瘍循環器学の最新の話題をフォーカスすると共に、日常診療における腫瘍循環器学領域の課題について

広く議論する場を設けます。新型コロナウイルス感染症の流行のため、今回の学術集会は完全ウェブ形式で開催させていただきますが、参加者の皆様が活発な議論を進めていただけるようにいたします。より多くの腫瘍医と循環器科医を初めとする医療従事者や研究者の皆様の御参加をお待ち申し上げます。そして、皆様のお力添えにより、この領域の発展に繋がる学術集会になることを祈念しております。

2021年（令和3年）2月吉日

第4回日本腫瘍循環器学会学術集会 会長
石岡 千加史
（東北大学大学院医学系研究科・臨床腫瘍学分野・教授）



「第3回学術集会開催のご報告」

第3回日本腫瘍循環器学会はCOVID-19の感染拡大に伴いLive配信／オンデマンド配信のみにて開催する運びとなりましたが、多数の皆様にご参加いただき盛会のうちに終了することができました。至らない点が多々あったことと存じますが、新しい形式の学術集会に挑戦させていただけたと思っております。

参加登録は572名で、そのうち116名はコメディカルの皆様でありました。オンデマンド配信の総視聴回数は4396回であり、最後まで関心を持って学術集会を盛り上げてくださいました皆様に厚くお礼申し上げます。本学術集会のテーマの「Beautiful Harmony of Onco-Cardiology」は、「令和」の英訳がbeautiful harmonyであったこともあり、がん専門医と循環器医、さらに多職種の皆さんが連携することを願ってネーミングいたしました。幅広い領域の先生方にご参加いただき、さらに多職種の皆様が参加され、本学術集会のテーマを十分に共有できたのではないかと思います。学会監修の「腫瘍循環器診療ハンドブック」が学術集会開催に合わせて発刊されることもあり、Liveセッションを3つ視聴されました参加者の皆様には書籍を進呈させていただきました。最終的に427部の書籍を進呈いたしました。

学術集会の準備はコロナ渦の影響を受け、開催形式への対応が必要でありました。会員の皆様には開催方式のアンケートをお願いし、快くご協力くださりましてありがとうございました。アンケート結果により対面開催は難しいと判断し、ハイブリッド形式を検討いたしました但最终的には完全web開催となりました。開催方式がぎりぎりまで定まらず、ご参加の皆様にはご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。そういった状況でも皆様のご理解くださり、また温かい励ましのお言葉までいただきました

ことは、事務局一同にとり大きな励みでございました。そして、本学術集会のプログラムの内容や運営など、多数の先生方からご助言をいただき支えていただきましたことを深く感謝申し上げます。今後も腫瘍医、循環器医、多職種の皆様が連携し、腫瘍循環器学が発展することを祈念しております。

最後に、皆様におかれましてはCOVID-19の治療・感染対策に大変な労力を費やされておられることと存じます。診療にご使命を果たされている皆様のご健勝とご自愛を心よりお祈り申し上げます。

第3回日本腫瘍循環器学会学術集会 会長

斎藤 能彦

(奈良県立医科大学 循環器内科学教室 教授)

● 学会報告 ●

European Society of Medical Oncology:
ESMO Virtual Congress 2020

2020年はCOVID-19の流行の影響のため、European Society of Medical Oncology (ESMO)のannual meetingも完全web開催(ESMO Virtual Congress 2020)となった。2020年9月19日から21日の期間に開催された。

Onco-Cardiologyに焦点を合わせたセッションはなく、またOnco-Cardiologyに関連した話題は多くはなかったが、各がん腫において標準治療を変えうる臨床試験の結果の報告がpresidential sessionを中心に相次いだ。

食道がんでは、KEYNOTE-590試験の結果が報告された。進行食道がんの1次治療で、標準療法の化学療法(シスプラチン+5-FU+プラセボ)群と試験(シスプラチン+5-FU+抗PD-1抗体ペムブロリズマブ)群を比較する国際共同第III相試験であった。計749名がランダム化され、主要評価項目である全生存期間(OS)と無増悪生存期間(PFS)の両方で試験群が優越性を示し、いずれ食道がんでの1次治療に抗PD-1抗体が加わる可能性が示された。また、食道がんの術前補助化学放射線療法+手術後の、術後補助化学療法としての抗PD-1抗体ニボルマブの有効性が検証されたCheckMate-577試験では、主要評価項目である無病生存期間において、ニボルマブ群がプラセボ群に対して優越性を示した。この結果からは、食道がんの術後補助療法として抗PD-1抗体が選択肢となる可能性が示唆されるが、現在国内での術前療法は化学療法単独が標準療法であり、このCheckMate-577試験での結果が国内の日常診療にどの程度影響を与えるかどうかは今後の検討が待たれる。

胃がんでは、CheckMate-649試験とATTRACTION-4試験が報告された。両試験ともに進行胃がんでの1次治療で標準の化学療法群に対するニボルマブの上乗せ効果を検証する第III相試験であった。欧米・アジアで行われたCheckMate-649試験では、主要評価項目であるPD-L1 CPSが5以上の患者群でのOSとPFSが、ともにニボルマブ併用群で優越性を示した。副

次評価項目である全患者でのOSでもニボルマブ併用群で優越性を示した。一方、アジア中心で行われたATTRACTION-4試験では、主要評価項目の1つのPFSではニボルマブ併用群が優越性を示したが、OSでは優越性を示さなかった。両試験でややconflictingな結果ではあるものの、胃がんでの1次治療における抗PD-1抗体の有用性が示唆される結果であり、いずれ日常診療に導入される可能性がある。

肺がんでは、第3世代EGFR阻害薬であるオシメルチニブがstage IB-III AのEGFR変異非小細胞肺癌患者の術後補助療法として、プラセボに比較し無病生存期間を延長させたADAURA試験や、ALK転座非小細胞肺癌の1次治療において第3世代ALK阻害薬であるロルラチニブがクリゾチニブに対しPFSで優越性を示したCROWN試験の結果が報告され、両試験ともにNEJM誌で発表されている。

さらに、他のがん腫の試験として、腎がん1次治療でのニボルマブ+多キナーゼ阻害薬カボザンチニブの有効性を示したCheckMate 9ER試験、ホルモン受容体陽性高リスク乳がんでの術後補助療法としてのCDK4/6阻害薬アベマシクリブの内分泌療法への上乗せ効果を示したmonarchE試験、去勢抵抗性前立腺がんでのPTEN lossのある群へのAKT阻害薬イパタセルチブのアビラテロン/ブレドニゾンへの上乗せ効果を示唆したIPATential150試験、などの結果が報告された。

各がん腫において、免疫チェックポイント阻害薬をはじめ各新規分子標的薬の日常診療へのさらなる導入が期待される試験結果の報告が今回のESMOでも多くなされた。分子標的薬数の増加、投与適応の拡大、治療期間の延長がますます予想され、抗がん薬治療による心血管有害事象のマネジメントもこれまで以上に重要性が増すと考えられる。

執筆者: 高橋 雅信

東北大学加齢医学研究所臨床腫瘍学分野、

東北大学病院腫瘍内科 准教授

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町4-1

東北大学加齢医学研究所 臨床腫瘍学分野

東北大学病院 腫瘍内科

E-mail: masanobu.takahashi.a7@tohoku.ac.jp

Tel: 022-717-8543, FAX: 022-717-8548

● 学会報告 ●

Virtual Cardio-Oncology Summit Report

Global Cardio-Oncology Summit (GCOS) は、2009年に設立されたInternational CardiOncology Society (ICOS) North America と2011年に設立されたCanadian Cardiac Oncology Network (CCON)とが共催し、2015年より開催されています。2020年度はカナダのトロントで開催予定でしたが、COVID-19の影響で2021年に延期されることとなり、今回はVirtual Cardio-Oncology Summitとして2020年10月1日にWeb開催されました。例年であれば2日間の日程ですが、今回は1日限りの開催で、以下の7つのテーマでコンパクトにまとめられた内容でした。

1. “Cardio-Oncology Care in 2020”

チーム医療や教育、リスク評価の重要性といった総論的な内容。

2. “Year in Review: The evolving field of Cardio-Oncology”

iPS細胞を用いたエネルギー代謝経路に関する研究、scRNA-seq解析による心毒性の評価、心不全時の炎症バイオマーカーとがん細胞増殖の関係など。

3. “Biomarkers and cardiovascular imaging techniques for Cardio-Oncology”

周術期におけるNT-proBNPとAfの関連。またCTRCDの診断におけるGLSの有用性 (SUCCOUR trial) について。

4. “Translating cardiovascular innovations to clinical practice for cancer patients”

がんと心不全の総論的な内容。またCARDIOTOXレジストリー研究から心不全の重症度と予後の関係について。

5. “Immunotherapy: Essentials for cardio-oncologists”

免疫療法による心筋炎について。高用量ステロイドの早期投与が重要であるが、高用量群は低用量群と比べて生存率が低下する (Winning the battle but losing the war !) 。

6. “Anticoagulation and arrhythmias in cancer patients: What do the experts say?”

がんとAfの関係。またDOACのVTE予防投与に関する臨床研究 (CASSINI、AVERT) について。

7. “Could cancer patients and survivors benefit from better prevention programs?”

がんサバイバーの長期フォローを行う上での問題点について。またがんサバイバーとCOVID-19関連の話題について。

Web開催のメリットを活かし、たくさんのコメントや質問がチャットで寄せられていました。日本からも順天堂大学の佐瀬先生より、「近い将来、日本でGCOSが開催できるよう頑張ります。」と力強いコメントが入りました。日本での開催を夢見て、まずは次回2021年9月29日～10月1日にカナダのトロントでの開催を楽しみにしています。



学会参加中の著者 (自撮り)

執筆者：塩山 渉

滋賀医科大学 循環器内科

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL: 077-548-2213

FAX: 077-543-5839

E-mail: shioyama.w@gmail.com

施設紹介

No.2

旭川医科大学・
循環呼吸神経病態内科・腫瘍循環器外来
北海道がんセンター循環器内科・
腫瘍循環器センター

旭川医科大学病院は、道北・道東エリアの医療を担う基幹病院であり、がん診療連携拠点病院（北海道高度がん診療中核病院）です。2019年4月より腫瘍循環器外来が開設されました。

国立病院機構北海道がんセンターは、札幌市白石区にある病院であり、「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定されております。札幌市内のみならず北海道全域をカバーしておりますが、従来から循環器内科は旭川医大との連携で運営されており、令和元年5月より腫瘍循環器センターが開設されています。

2019年9月21日(土)～22日(日)、旭川市で第2回日本腫瘍循環器学会学術集会が開催されました。「花開く、腫瘍循環器連携（Flowering of Onco-Cardio Collaboration）」をテーマとして、腫瘍領域の専門家・医療従事者と循環器領域の専門家・医療従事者の連携が、旭川で花開く機会になるようにとの学会のコンセプトで行われ、学会会員の諸先生および御協力いただいた皆様には感謝申し上げます。欧州腫瘍研究所所長Daniela Cardinale先生の招聘講演にも触れられていましたが、癌関連心機能低下の心エコーによる心筋ストレイン画像による評価や血液検査による早期マーカーについての検討を、臨床生理検査部門と協力して行っています。小室一成先生（東京大学大学院医学系研究科循環器内科学）からの理事長講演にありましたような、腫瘍循環器学会関係の教育・啓発活動にも取り組んでいます。中釜 斉先生（国立がん研究センター理事長）からの国内特別講演にありました、がんゲノム医療についても腫瘍科部門から最前線の情報を逐次提供

していただいています。アントラサイクリン系の心毒性は晩期にも発症することが知られています。小児がん領域では晩期合併症が問題視されており、成人がん患者の晩期合併症や長期フォローアップの方法については一定の見解がなく、その多くが見過される傾向にあります。パネルディスカッションにもありました、矢野真吾先生（東京慈恵会医科大学腫瘍・血液内科）からのガイダンス策定、石岡千加史先生（東北大学病院腫瘍内科）からのレジストリー研究にも積極的にご協力させていただければと考えています。

がん治療関連心機能障害に対して一般的な心不全治療薬以外は特異的な治療方法は未だ存在せず臨床的な課題とされており、心臓リハビリや運動療法の効果、新しい作用機序による免疫チェックポイント阻害薬による心筋炎やiPS細胞を用いた基礎研究に取り組んでいます。

がん関連血栓塞栓症のうち、静脈血栓塞栓症は最も頻度の高い合併症である一方、脳領域では、悪性腫瘍随伴血栓症のほとんどが脳梗塞（動脈血栓症）の形式をとり、静脈血栓症は非常に少数であるなど、他の背景病態とは様相を異にしており、神経内科や呼吸器内科や腎臓内科とも協力して診療・研究に当たっています。

北海道がんセンターではがん専門病院での腫瘍循環器センターが十分機能するため、関連する多職種の連携（Inter Professional Work：IPW）を効率的に行うための情報共有システムを構築しています。情報の共有を電子カルテ上のデータベース（DB）上で行い、心臓リハビリテーション（心リハ）DB、生理検査DB（化学療法心障害DBと深部静脈血栓症DB）の3つのDBを運用して、情報を逐次把握して、問題点を整理してカンファランスに臨み、IPWをより効率的に行いながら、北海道の腫瘍循環器診療の拠点としての自覚を持って活動しております。

日本腫瘍循環器学会の発展のために、我々の施設が、少しでも貢献できますことを願いながら、今後とも精進して参りたいと思います。



旭山動物園における懇親会で教室旗をバックに
学会賞受賞者との記念撮影

藤野 貴行¹、井上 仁喜²、長谷部 直幸¹

¹ 旭川医科大学・循環・呼吸・神経・病態内科

² 北海道がんセンター循環器内科・腫瘍循環器センター
北海道旭川市緑が丘東2条1-1-1

E-mail; ffuji42@asahikawa-med.ac.jp

● 役員名簿 ●

理事長	小室 一成	(東京大学大学院医学系研究科)
副理事長	南 博信	(神戸大学大学院医学研究科)
理事	赤司 浩一	(九州大学大学院医学研究科)
	秋下 雅弘	(東京大学大学院医学系研究科)
	石岡 千加史	(東北大学大学院医学系研究科)
	石坂 信和	(大阪医科大学)
	伊藤 浩	(岡山大学大学院医歯薬総合研究科)
	大須賀 穰	(東京大学大学院医学系研究科)
	絹川 弘一郎	(富山大学大学院医学薬学研究部)
	木原 康樹	(神戸市立医療センター中央市民病院)
	木村 晋也	(佐賀大学医学部)
	斎藤 能彦	(奈良県立医科大学)
	佐瀬 一洋	(順天堂大学大学院医学研究科)
	坂田 泰史	(大阪大学大学院医学系研究科)
	佐田 政隆	(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)
	竹石 恭知	(福島県立医科大学)
	筒井 裕之	(九州大学大学院医学研究科)
	戸井 雅和	(京都大学大学院医学研究科)
	中釜 斉	(国立がん研究センター)
	中村 真潮	(陽だまりの丘なかむら内科)
	野出 孝一	(佐賀大学医学部)
	萩原 誠久	(東京女子医科大学)
	長谷部 直幸	(旭川医科大学)
	平田 健一	(神戸大学大学院医学研究科)
	三谷 絹子	(獨協医科大学)
	南野 徹	(順天堂大学大学院医学研究科)
	向井 幹夫	(大阪国際がんセンター)
	室原 豊明	(名古屋大学大学院医学系研究科)
	保田 知生	(星ヶ丘医療センター)
	矢野 真吾	(東京慈恵会医科大学)
監事	磯部 光章	(榊原記念病院)
	田村 和夫	(臨床血液・腫瘍研究会)
幹事	赤澤 宏	(東京大学大学院医学系研究科)
	岡 亨	(大阪国際がんセンター)
	照井 康仁	(埼玉医科大学)
	清水 千佳子	(国立国際医療研究センター病院)

● 編集後記 ●

日本腫瘍循環器学会会員向け会報第2号を発行することができました。今回は、第3回学術集会、ESMO、Virtual GCOSのご報告と、第4回学術集会のご案内、第2回学術集会を主催された旭川医科大学と北海道がんセンターの施設紹介を掲載いたしました。日頃の診療や研究に加えCOVID-19への対応等でお忙しい中、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。多くの学会がオンデマンド配信になりましたが、参加登録者数に加え、視聴（再生）回数が数字で出て関心の高い領域も分かりますし、視聴者側も好きな時間に、何度も視聴できるのでメリットも多いと感じています。

今後も有用な情報を提供すべく紙面のさらなる充実を図って参りたいと考えておりますので、会員の皆様からのご意見やご要望をお待ちしております。



日本腫瘍循環器学会 会報

(年1回刊行)

第2号 (2021年4月)

発行 / 一般社団法人 日本腫瘍循環器学会

編集 / 一般社団法人 日本腫瘍循環器学会事務局
(一般社団法人 学会支援機構)

● 入会案内 ●

正会員：この法人の目的に賛同して入会した個人
または団体（年会費：8,000 円）

賛助会員：この法人の目的に賛同し、この法人を
資金的に援助する個人および団体（年会費：1 口
50,000 円 口数に制限はありません）